

日本の経済政策とこれからの経済学

慶應義塾大学経済学部教授

こばやし けいちろう
小林 慶一郎

- * 過去30年間の日本経済をどう捉えるか
- * 不良債権の先送りが長期停滞の原因
- * 波及したデット・デイスオーガニゼーション
- * 単純に考え過ぎた国民のインフレ期待
- * 不良債権処理遅延による後遺症について
- * 財政拡大が成長を阻害する可能性
- * 独立財政機関について考える
- * 過去の政策的失敗を生んだ再帰的思考の欠如
- * 将来世代とフューチャー・デザイン
- * 世代間の公平性をいかに担保するか



山縣 それでは開会いたします。（拍手）

本日は、慶應義塾大学の経済学部教授、小林慶一郎先生をお迎えしました。先生は、東大工学部を出られた後、数理工学を専攻されて修士を取られて通産省に入られ、その後、シカゴ大学の大学院で経済学を修めていらっしゃいます。経済産業研究所で研究員、上席研究員を務められて、今では慶應で教鞭を取っていらっしゃるということでもあります。

私が昔、先生の本で非常に感銘を受けたというか内容にびっくりしてすごく刺激を受けた『日本経済の罫』（加藤創太さんの共著）が2001年に発行されていますけれども、これで第44回日経・経済図書文化賞を受賞されています。最近では、中公新書から『日本の経済政策』失

われた30年」をいかに克服するか」というご本も昨年出されていらっしゃいます。

実は、コロナの最中にいろいろな逼迫した問題になりました、社会もたいへん混乱したわけですが、先生は経済学者としてこの問題をどうすべきかということに随分尽力されまして、実は東洋経済オンラインに緊急提言を何度も出していただきました。阪大に大竹文雄先生という方がいらっしゃって、私は個人的な知り合いなんですけれども、大竹先生を通じて小林先生と大竹先生の両方のお名前で幾つかご提言をなさいました。たとえば、進まないワクチン予約の劇的な改善を求める緊急提言ですとか、コロナ医療体制2倍以上の拡充を求める緊急提言ですとか、こういったことを何度もオンライン